



第 34 回
歯科保健医療国際協力協議会
総会および学術集会
プログラム・抄録集

The 34th Annual Meeting of Japan Association of
International Cooperation for Oral Health

我ら，歯科医療者ができる国際協力

学術大会プログラム

12:30～ 総会

13:00～ 開会挨拶

13:10～ 特別講演

「歯科医ができる国際医療援助」

久保田歯科口腔外科医院院長・佐賀大学臨床教授 久保田 英朗 先生

14:20～ シンポジウム

《我ら歯科医療者ができる国際協力とは？》

- ・「グローバルオーラルヘルスプロモーションにおいて日本のオーラルヘルスプロフェッショナルに求められるもの」
新潟大学大学院口腔健康科学講座教授/WHO協力センター 小川 祐司先生
- ・「パラオ共和国での医療活動の”これから”を考える」
NGO パンジープロジェクト 小川 允知 先生
- ・「ベトナムでの歯科保健活動－歯科衛生士は海をわたる－」
一般社団法人大分県歯科衛生士会 有松 ひとみ先生
- ・「歯科医療×公衆衛生」
落合小児歯科 朱 薫子 先生

16:00～ ディスカッション

16:50～ 閉会挨拶

17:15～ 懇親会

2023 年度 歯科保健医療国際協力協議会 総会・学術大会を開催するにあたり

2024 年 7 月 15 日

1990 年から活動している歯科保健医療国際協力協議会は、2023 年 8 月 31 日に特定非営利活動法人歯科保健医療国際協力協議会として発展致しました。

2023 年第 33 回学術集会は「歯科国際協力の未来」のテーマにて特別講演、各団体、個人より御講演、ポスター発表をしていただき皆様には誠に感謝申し上げます。

今年度の第 34 回歯科保健医療国際協力協議会 JAICOH の総会・学術集会のテーマは、「我ら、歯科医療従事者ができる国際協力」です。

特別講演は、「歯科医ができる国際医療援助」の演題で、久保田英朗先生にご講演をお願い致しました。続いてシンポジウム「我ら歯科医療者ができる国際協力とは？」をテーマに小川祐司先生を始めに、小川允知先生、有松ひとみ先生、朱薫子先生よりご講演をいただきます。ディスカッションでは、久保田英朗先生にも加わっていただき会場の皆様と共に「国際協力とは？」のテーマで活発な意見交換をして行きたいと思っております。このシンポジウム形式で行われる討論を通じて、発展途上国の皆様に良き歯科医療が提供でき、歯科疾患の予防に繋がる良いシステム作りに貢献が出来ることを願います。

国際協力を行う各団体、会員の皆様、参加された多くの方々と共に情報を交換し、お互いの国際協力について語り合い発展途上国での歯科医療の貢献に寄与出来ることを節に希望致します。今後ともよろしくお願い申し上げます。

特定非営利活動法人歯科保健医療国際協力協議会(JAICOH)
河村康二、白田千代子、深井穂博

歯科医ができる国際医療援助

久保田英朗



私は、横須賀ロータリークラブの会員ですが、2014年から2023年に至る10年間で3回にわたり国際ロータリー財団から補助金をいただき口唇口蓋裂児の国際医療援助活動を行ってきました。そのきっかけは、私が所属していた大学のNPO法人神奈川歯科大学南東アジア支援団の一員として、フィリピン国セブ市の貧困層の子供たちの歯科検診ならびに歯科医療活動に参加した時、学童の約1%に口唇口蓋裂児が認められ、約0.2%といわれるアジア人の発生率に比べフィリピンでは多いことに気づいたからでした。

その理由として、日本では国民皆保険制度が整備され、低年齢の時期に口唇口蓋裂児は無償で手術を受けられますが、フィリピン国の貧困層では家族の年収をはるかに上回る治療費を支払うことができないこと、口唇口蓋裂の慈善治療を担当する医師、歯科医師が少ないこと、疾病に対する母子保健指導が徹底されていないことなどが挙げられます。そこで、フィリピン国の貧困層の口唇口蓋裂患児に対し、慈善医療活動を行うとともに、現地医療スタッフに口唇口蓋裂医療の技術移転と教育を行い、現地の医療人による治療の確立を目指してこの10年間の活動を行ってきました。

フィリピン国では、ROTAPLAST、OPERATION RESTORE HOPE、OPERATION SMILEなど米国を主とする慈善団体が口唇口蓋裂患者の慈善医療活動を行っていますが、現地で手術だけを行い、術後の患者のフォローアップや現地医療関係者への技術移転などは行っていません。セブ市の人口は約200万人で、学童中の口唇口蓋裂発生率をアジア人の平均である0.2%とすると毎年4000名の患者が治療を必要とすることになります。口唇口蓋裂児の慈善医療活動を外国の団体が行っても、患者数に対し治療のキャパシティが追いついていないのが現状です。

私どもは、最初セブ島の西方にあるネグロス島ドマゲッティ市の南ドマゲッティRCと協力し、現地のHoly Child病院の歯科医師であるPatrick氏、看護師、言語聴覚士を日本に招聘し、口唇口蓋裂術後の言語治療について研修を行いました。また、2016年には南ドマゲッティRCより会員数が多く、数多くの奉仕活動

を手掛けているセブ RC と協力して、セブ市の ADVENTISTS' 病院で活動を行いました。セブ RC は、病院への患児の受け入れ(家族への連絡、病室の確保、入院食の提供)を現地 NPO 法人である Abounding in Love やローターアクターと共に支援し、派遣チーム活動中の諸事の面倒をみてくれました。このようにフィリピンの良きパートナーに恵まれ 2019 年からの3年間に渡る活動で、セブ市に口唇口蓋裂術後の患者ケアを行う医療拠点(口唇口蓋裂センター)を設立することができました。

これには、当初からからずっと一緒に活動を支援し続けてくれた Patrick 氏、河野伸二郎氏、佐賀大学香月武教授の協力なくしては考えられません。さらに私の友人でマニラの De Los Santos Medical Center の口腔外科医である Mario Esquillo 教授とそのレジデント達、日本の歯科大学を定年退官した覚道健治、内山健志、栗田賢一教授たちの協力もあって、技術移転をスムーズに行うことができました。

海外医療援助活動を行うにあたっては、援助対象国のパートナーの協力が大切で、現地のニーズを把握して持続性を持って活動を行うことが重要だと思います。私は寄る年波に勝てず、昨年末右眼の白内障手術を受けましたが、現在は視力が回復し、体が健康な限りもう少しこの活動が続けていこうと思っています。今回の講演では私たちが行っている援助活動の一端をお示し、皆様のご批評を仰ぎたいと思います。

略歴

- 1978年3月 神奈川歯科大学 卒業
- 1978年4月 慶応義塾大学医学部付属病院歯科口腔外科研修医
- 1984年3月 慶応義塾大学大学院医学研究科博士課程修了
- 1984年4月 慶応義塾大学医学部微生物学教室助手
- 1984年9月 米国カルフォルニア大学サンディエゴ校留学
- 1986年9月 佐賀医科大学付属病院歯科口腔外科医員
- 1987年4月 佐賀医科大学歯科口腔外科学講師
- 1995年10月 神奈川歯科大学口腔外科学第2講座教授
- 1995年11月 神奈川歯科大学大学院教授併任
- 2005年4月 神奈川歯科大学教学部部長
- 2007年5月 学校法人神奈川歯科大学評議員
- 2008年4月 神奈川歯科大学学長、高次口腔科学研究所所長、学校法人神奈川歯科大学理事
- 2009年7月 神奈川歯科大学理事長
- 2015年3月 神奈川歯科大学退職 久保田歯科口腔外科医院 院長

☆シンポジウム

『我ら歯科医療者ができる国際協力とは？』

グローバルオーラルヘルスプロモーションにおいて 日本のオーラルヘルスプロフェッショナルに 求められるもの

新潟大学大学院 医歯学総合研究科予防歯科学分野
WHO 協力センター
小川祐司



ユニバーサルヘルスカバレッジ(UHC)達成のためにオーラルヘルスは不可欠とのイニシアチブのもと、プライマリーヘルスケアにオーラルヘルスを癒合させる戦略が進められている。そこで、このプレゼンテーションでは、これからのオーラルヘルスプロモーションの方向性を検証しながら、日本のオーラルヘルスヘルスプロフェッショナルがグローバルな視点でどのような役割と期待があるのか考察を試みる。

略歴

- 1994年 日本大学松戸歯学部 卒業
- 1996年 シドニー大学大学院歯学研究科 修士課程修了
- 2001年 新潟大学大学院医歯学総合研究科 博士課程修了
- 2011年 新潟大学大学院医歯学総合研究科 准教授
- 2014年 WHO 世界保健機関 国際口腔保健部 統括歯科医官
- 2018年 新潟大学大学院医歯学総合研究科予防歯科学 教授
WHO 世界保健機関協力センター長(新潟大学)
- 2023年 新潟大学歯学部副学部長

その他

- 日本歯科医師会 国際渉外委員会委員
- 日本口腔衛生学会 理事、国際交流委員会委員長
- FDI(世界歯科連盟) 理事

パラオ共和国での医療活動の”これから”を考える

NGO パンジープロジェクト
小川允知



2017年に初めてパラオ共和国を訪れ、パラオという国に魅せられた私は、2019年に大学の同期と一緒に、パラオの病院歯科での医療支援活動を開始しました。

当時、臨床医として14年目。ボランティア活動すら経験したことがなかった私たちにとって、海外での活動は大きな経験となりました。現在も、年に1~2回の活動を続けておりますが、活動のたびに大きな「学び」を得ることができております。海外での医療支援の現場に、医療従事者の「学びの場」としての可能性を感じています。

その後、活動を続ける中で『目先の支援では、パラオは変わらない』ということに気が付きました。そこで、私たちは中長期での計画を立てました。これまでの活動と並行して、中期でのフッ素洗口による「う蝕予防プログラム」を行うこと。そして、長期での「医療教育機関の設立」を目標に掲げ活動を模索しています。

活動歴も浅く、まだまだこれからの組織ですが、皆さまの深い経験と豊富な知識に胸を借りるつもりで発表をさせていただきます。

ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願いいたします。

略歴

- 2005年 九州歯科大学卒業
福岡県内の歯科医院に勤務
- 2011年 小川歯科医院を継承(福岡市東区)
- 2019年 NGO パンジープロジェクトを設立

その他

- 2015年 “骨縁下欠損を伴う歯周病症例への対応”(日本歯科評論 Vol.75 2015-3)
- 2018年 Europerio9 ポスター発表
“Moderate chronic periodontitis treatment without periodontal surgery.3 years follow up of the 8mm pocket.”
- 2020年 日本歯周病学会認定医取得
- 2021年 “歯科臨床の知恵と技 結果にこだわる!「下川臨床」テクニックあの手この手”への寄稿(医歯薬出版 2021-3)
- 2022年 “禁煙指導後に歯周組織再生療法を行った1症例” 日本臨床歯周病学会誌 JJACP Vol.40 No.1/2022

ベトナムでの歯科保健活動 ー 歯科衛生士は海をわたるー

一般社団法人 大分県歯科衛生士会
有松ひとみ



2004年からベトナム社会主義共和国で、ストリートチルドレンや施設等の子ども達を中心にした歯科ボランティア活動を継続してきました。コロナ禍で中断されたものの、2022年からは、JICA(独立行政法人国際協力機構)草の根技術協力支援事業に歯科衛生士として参加しています。この事業は、「運動」「栄養」「口腔」を三位一体で行っている日本式介護予防を、高齢化対策プロジェクトとして普及展開することを目的とし、保健省と協働しながら、首都ハノイ市を含めた周辺地域で実践しているものです。

この事業背景には、日本と同じく急速にすすむ高齢者問題があります。歯と口の健康が全身疾患やフレイルに影響を与えるエビデンスが蓄積されてきた今、『予防』を専門とする歯科職へのニーズは高いにも関わらず、ベトナム国はじめ多くの東南アジア諸国には、体制が整っていない実情があります。異国での活動を通じてみえてきたミッションを、参加者の皆様と一緒に考え共有できれば幸いです。

学歴

1980年 九州歯科大学附属歯科衛生学院 卒業
2006年 立命館アジア太平洋大学国際マネジメント科 卒業

職歴

1980年 北九州市内小児歯科・矯正歯科医院 勤務
1985年 九州歯科大学附属歯科衛生学院 専任講師
2009年 大分県別府市内病院 リハビリテーション部所属勤務
2022年 JICA 草の根技術協力事業ベトナム派遣員

表彰

2017年 IFDH 国際歯科衛生士連盟 Social Responsibility award 第3位受賞
2022年 大分県知事功労賞

表彰

「歯科保健指導教本」医歯薬出版(1988年版)
「歯科衛生士のための地域ケア会議マニュアル」医歯薬出版(2017年版)

「歯科医療×公衆衛生」

落合小児歯科
朱 薫子



私が公衆衛生に関心をもったのは、亀田総合病院に臨床研修医として就職した際のことでした。総合病院の歯科には、基礎疾患をもつ患者や入院患者が多く来院し、医科歯科連携も盛んな一方、歯科は受け身になってしまうことが多く、歯科側から何かアプローチができないかと考えていました。研修医二年目に、医科ローテーションの一部を経験させていただき、医科歯科の知識の交換や人的交流を経て、医科歯科の学問上の線引きを超えた健康への幅広い理解を深めたいという思いが高まり、公衆衛生を学ぶことを決意しました。

そして2021年からフランスの EHESP(公衆衛生学院)の修士課程に留学しました。在学中は、様々な国籍の学生たちと、あらゆる公衆衛生の課題について問題解決、議論の方法を学び、OECDのインターンシップでは、OECDの年次報告書の執筆に関わりました。歯科の現場から離れ、さまざまなバックグラウンドを持つ人たちと健康問題を考えた2年間、健康に対する意識は大きく変わりました。それは、臨床の現場でひとりひとりの患者に向き合っていた視点とは異なる、個人の健康を守る社会を俯瞰する視点を身に着けたことです。

日本に戻ってきた今、改めて自分ができることとは何か、問い直しています。Oral Health を通じて、健康格差の解消、健康増進に貢献できる人材になることを目標にし、キャリアを模索しております。

略歴

2017年 日本歯科大学卒業
2018年 亀田総合病院臨床研修医
2021年 EHESP修士課程入学
2023年 EHESP卒業
2024年～今に至る

The Nippon Dental Review
月刊『**日本歯科評論**』



世代を超え、
長く読み継がれている
歯科臨床医のための
月刊誌！



毎月20日発売
A4変判・定価2,970円(税込)

好評連載中！ World Health Report

2024年1月号

W. RLD HEALTH REPORT
WHO 資料世界保健委員会に参加して

遠藤 眞美

2月号

W. RLD HEALTH REPORT
本邦を代表的と認められるアムダム根拠的治療計画

牧野 由佳

3月号

W. RLD HEALTH REPORT
プライマリーヘルスケアが実現できている日本が
他国に伝えられること

清原 宏之

4月号

W. RLD HEALTH REPORT
アジア諸国の保健ボランティアについて

久保田 悠

5月号

W. RLD HEALTH REPORT
JICA 国際専門家としての国際協力への関わり方

村井 真介

6月号

W. RLD HEALTH REPORT
2024 FDI Mid-Year Meeting 報告

小村 祐司

執筆者一覧 (50音順)

- 小川 祐司:新潟大学大学院 歯学総合研究科 予防歯科学分野 教授
 遠藤 眞美:日本大学松戸歯学部 障害者歯科学講座 専任講師
 清原 宏之:厚生労働省 大臣官房 国際課/国立国際医療研究センター国際医療協力局 客員研究員
 久保田 悠:神奈川県立保健福祉大学 ヘルスイノベーション研究科
 牧野 由佳:WHO アフリカ地域事務所(AFRO) 口腔保健担当官(テクニカルオフィサー)
 村井 真介:国立国際医療研究センター国際医療協力局

株式会社 **ヒョーロン** パブリッシャーズ

〒162-0041 東京都新宿区早稲田鶴巻町531-5 OKADOビル
 Tel.03-6709-6771 Fax.03-6709-6774
<https://www.hyoron.co.jp>



Web セミナーの
お申し込みはこちら

7/19 (金) 20:00 ~ 21:30 #55

歯を救う歯周治療
～歯周基本治療と歯肉剝離掻爬術を中心に～




関連書籍は
こちらから

8/8 (木) 20:00 ~ 21:30 #56

THE ALIGNER ORTHO
アライナー矯正治療の最適解 (仮)




関連書籍は
こちらから

8/29 (木) 20:00 ~ 21:30 #57

患者一人ひとりに真に
調和した咬合面のつくりかた
～Gnatho-Guide Occlusion (GGO) の提案～




関連書籍は
こちらから

Web 講座 開催中!!
歯科保険請求 2024



Web 講座は
視聴無料

解説：お茶の水保険診療研究会

Web 講座は
こちらから

オンデマンド配信中

41

咬合論&咬合矯正論



42

即時治療の最新



44

歯を守る
口腔衛生



46

歯と口の健康づくり



49

口腔機能障害の
リハビリテーション
臨床マニュアル



50

歯科臨床の
動機づけ面接



51

ゼロリスクを
実現する
レジストレーション



52

世界最良の
歯科
保健法



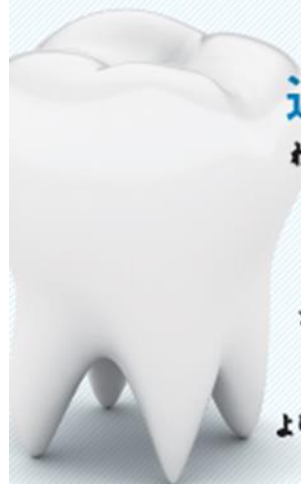
53

ソフト
アクリル



オンデマンド配信の
お申し込みはこちら





近年、結びつきを強める口腔保健と栄養。
わが国における「健康日本21」においても、
その重要性が示されています。
本書では口腔保健と栄養に関して、
さまざまな分野・シチュエーションにおける
エビデンスを紹介し、
より効果の上がる保健指導の手助けをします。

栄養が 口腔保健と

エビデンスを
介して手を結ぶ



健康長寿のための
口腔保健と栄養をむすぶ
エビデンスブック

深井 穂博
【編著】

174頁 / 2色・A5判
定価4,180円(本体3,800円+税10%)
ISBN978-4-263-44562-4



本書は、こんなときに活用できます

- 歯科医師・歯科衛生士の方々……… 歯科医院での、歯科治療前後の保健指導に活用できます
- 管理栄養士・栄養士の方々……… 栄養・食事相談の一環として活用できます
- 行政に勤務の方々……… 地域の保健活動や政策立案に活用できます
- 研究者や学生など、保健に関わるの方々……… 口腔保健と栄養の最新のエビデンスが紹介されています

医歯薬出版株式会社 〒113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 <https://www.ishiyaku.co.jp>
[TEL] 03-5395-7630 [FAX] 03-5395-7633

☆情報提供

《ホームページ》

ホームページ(<https://www.jaicoh.com>)では, JAICOH の活動などもご参考していただけるように誰もがダウンロードできる JAICOH レターのページ等も設置しています。ぜひとも, ご活用ください。

今後は, ますます充実させたいと思っていますのでホームページ活用に関してアイデア等がございましたら, ご連絡を事務局までいただけますと幸いです!



《会員登録のお願い》

歯科保健医療国際協力協議会は 2023 年 8 月に特定非営利活動法人の登録認証のために, 会員継続および新入会につきましては, 改めて会員情報の登録・更新をさせていただきたく, 会員登録入力フォーム(<https://forms.gle/d9xzxEW8dpDVzggN6>)へのご記入をよろしくお願い申し上げます。ホームページからも登録できます。



<会 費>

- ・入会金 なし
- ・年会費 賛助会員:10,000 円, 正会員: 5,000 円, 学生会員: 無料

<ゆうちょ銀行から窓口で(現金又は口座から)振り込む場合>

『電信払込み請求書・電信振替請求書』を用いてお振り込みください。

【記号】11440

【番号】04245821

【名前】特定非営利活動法人歯科医療国際協力協議会

【フリガナ】トクヒ)シカホケンイリョウコクサイキョウリョクキョウギカイ

※口座からお振り込みの場合は通帳とお届け印が必要となります。

<ゆうちょ銀行から ATM で振り込む場合>

【振込先】ゆうちょ銀行

【記号】11440

【番号】04245821

【名前】トクヒ)シカホケンイリョウコクサイキョウリョクキョウギカイ

<他金融機関から振り込む場合>

【店名】一四八(読み イチヨンハチ)

【店番】148

【預金種目】普通預金

【口座番号】0424582

【振込先】ゆうちょ銀行

第 34 回歯科保健国際協力協議会(JAICOH)総会・学術集会

発行日:2024 年 7 月 15 日

発行者: 歯科保健医療国際協力協議会(JAICOH)

連絡先: jaicoh2023@gmail.com

HP: <https://www.jaicoh.com/>

無断転載・複製・複写を禁じます。